

国 語

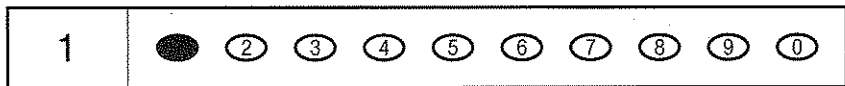
注 意

1. 問題は全部で16ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)



4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

冷戦構造の瓦解による市場経済の世界的ハキユウ^aは、新自由主義(ネオリベリズム)の論理と力学を頑強にした。新自由主義とは経済効率性や市場競争力そのものを「正義」とするイデオロギーであり、その過剰を制御する価値として「正義」を位置づけた哲学者ジョン・ロールズらに代表される立場——米国における自由主義(リベラリズム)、ヨーロッパなどにおける社会民主主義——とはほぼ対極にある。

例えば、大学では、目前の実用性や実利性に乏しい人文学や社会科学は「座学」(椅子に座って教師の話を書く講義形式の科目)として敬遠され、学術よりも実務を重んじる風潮が強くなった。一九七〇年代後半にイギリスで研究開発され、マーガレット・サッチャー政権時代の八四年、失業者を対象にした職業訓練政策の一環として世界で初めて活用された職業適性診断テストや、ロナルド・レーガン政権時代の米国で急速に拡大した大学生の企業実習研修(インターンシップ)制度が、徐々に日本でも導入されるようになった。²「顧客(消費者)」としての大学生による授業評価制度が本格的に日本に導入されたのは、九〇年代のことであつた。

これらは世界的な傾向でもあり、他の職種同様、市場原理と自己規律化(各個人が主体的に特定の規範に従うようになること)が支配する「オーデイト文化」(監査文化)は、確実にキャンパスを覆いつつある。そこでは怠惰や無駄は徹底的に否定・排除され、効率性や生産性が厳しく問われることになる。そして、品質管理から認定・保証・報告・評価に至るまで、往々にして「客観的なデータ」を媒介に行なわれることが今日的な特徴でもある。個人の実存性や内面性が顧慮されることはなく、個人(ないしその群れ)は計算かつ制御可能なものとして捉えられる。それはまさに新自由主義を支え、かつ新自由主義によつて支えられた文化と言えよう。

新自由主義は消費者至上主義とでも言うべき傾向も助長する。例えば、「低価格」こそは「正義」であるかのような風潮である。それは、往々にして製造業に対する小売業の優位を意味し、コスト削減や効率化などの名目で末端の生産者や労働者に過大な圧

力を課すことになる。当然、雇用は不安定となり、労働者の権利は蝕まれる。これは一九八〇年代以降の米国でとりわけ顕著になった傾向であるが、グローバル化が進む今日、日本を含め、他の国とて無縁ではいられない。

例えば、エネルギーや資源の節約を本気で考えるならば、コンビニは二十四時間営業を自粛すべきかもしれない。しかし、それは「顧客(消費者)のため」という大義に反し、企業としての「成長」も鈍化させかねない。スーパーモダンの時代(近代化が加速ないし拡張、深化した時代)にあつて、その誘惑を断ち切ることはなおさら難しい。ただし、私たちの多くは「消費者」であると同時に「A」でもある。両者は本来的に不可分であり、どちらか一方の権利のみが偏重されることは不自然かつ不健全と言えよう。

文化人類学者ジョゼフ・デユミットは「正常なインセキュリティ(不安)、健康なインセキュリティ(不安)」「二〇一〇年」と題する論文において、米国の製薬業界を対象に行なった自身のフィールドワークについて報告している。ここでは、製薬会社が自社に有利なように実験結果を操作し、息のかかった医師に専門誌への論文発表を依頼し、ガイドラインを作成する委員へ便宜を供与し、啓発キャンペーンや患者の支援団体を助成し、新薬の広告や販売促進に莫大な資金を投入する、という構図が指摘されている。

その結果、例えば、米国精神医学会による『精神疾患の診断・統計マニュアル』を見ると、第四版(一九九四年)では約三五〇だった精神疾患のカテゴリーが第五版(二〇一三年)では約五〇〇へと細分化され、「病」が増えている。とりわけ九〇年代以降は、それまで病と認定されてこなかった症状に対しても「未病(pre-disease)」という概念が広く用いられるようになり、病のカテゴリーが飛躍的に拡大した。

「病とは健康状態からの逸脱である」という従来のパラダイム(ある時代に支配的な考え方・捉え方)は、もはや破綻をきたしている。むしろ病であることこそ新たな常態であり、際限なき(そして完治なき)病の前に、私たちは症状・発症をいかに制御することに注意を傾ける他なくなった。それどころか「顧客(消費者)」として、こうしたカテゴリーを積極的に受け入れることで、製薬業界を取り巻く構図の再生産に加担している。著者はそう主張する。

ちなみに、『ニューヨーク・タイムズ・マガジン』誌(二〇一〇年一月号)は、米国流の精神疾患——特に、うつ病、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、摂食障害など——に関する診断基準や治療方法が、近年、まるで疫病のごとき速度で世界各地に広がっていると報告している。日本では二〇〇〇年頃からうつ病を「心の風邪」と称する啓発キャンペーンが製薬会社によって展開されたこともあり、うつ病の患者数は一九九九年からの九年間で二・四倍に膨れ上がった。

その一方、医療人類学者であり医師でもあるポール・ファーマーは、中南米やロシア、米国などでの医療経験をまとめた『権力の病理』(二〇〇三年)において、人種差別や階級格差といった構造的暴力、その構造と相互依存関係にある権力、その権力を支える身近な制度や規範など、幅広く射程に捉えながら、人権や社会正義が蹂躪じゅうりゃくされている現状を告発する。

例えば、医療倫理。議論されるのは脳死や臓器移植など高度医療の是非ばかりで、構造の底辺を生きる人々への責務が問われることは少ない。そうした風潮の下で医療が「費用対効果」など市場原理的な概念に絡めとられてしまえば「医学の実践ですら人権侵害に加担しうる」と批判する。

途上国や新興国のみならず、先進国においても新自由主義の論理と力学が、従来の社会的な紐帯や信頼を分断し、経済格差や意識格差を拡大し、個人を孤立(原子)化するリスクが顕著になりつつある。

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)が低減し、「協調」(コミュニティ・ソリユーション)が困難になれば、「強制」(ヒエラルキー・ソリユーション)ないし「報酬」(マーケット・ソリユーション)による問題解決に頼らざるを得なくなり、社会全体のガバナンス(統治)コストは増大する。「他者」への想像力の希薄化は監視社会や訴訟社会、厳罰社会を誘引するとともに、かつて思想家アレクシ・ド・トクヴィルが警鐘を鳴らした、フワ雷び同的な「多数派の専制」を助長しかねない。

思想家アントニオ・ネグリとマイケル・ハートは『帝国』(二〇〇〇年)において、こうした新自由主義による新たな支配のあり方を「帝国」と表現した。帝国といっても古典的帝国(前近代的帝国)や植民地帝国(近代的帝国)≡帝国主義国家とは全く別物で、「領土や境界をもたない、中心をもたない、国民国家をも包摂する新たなグローバルな権力7ないしはネットワーク」を指す。新自由主義に適應すべく、様々なシステムが自己形成化・自己組織化するなか、「帝国」の権力やネットワークはさらに拡大・深

化・再生産されてゆく。私たちは〈帝国〉の手のひらの上に生き、そして私たちの生そのものが〈帝国〉をさらに強化しているといふわけだ。

グローバルゼーション(市場経済の世界的ハキユウとインターネットを中心とする情報通信技術の遍在化をさす概念)に伴うリスクについては国際機関も懸念を示すようになった。従来、リスク吸収の機能は国家に委ねられてきたが、破綻国家が増加し、政情不安や内戦が頻発するようになった。その一方、先進国も財源不足などから「援助疲れ」に陥るなか、国連開発計画(UNDP)は一九九四年版の『人間開発報告書』において、初めて「人間の安全保障(ヒューマンセキュリティ)」という概念を公式に用いた。「安全保障」の対象を従来の「国家」から「人間」へと拡大したもので、生存・生活・尊厳を脅かす広汎かつ深刻な「恐怖」や「欠乏」から人々を守り、「保護」と「能力強化」を通して個人個人の持つ可能性を広げ、自立を促し、持続可能な社会づくりに取り組む考え方を指す。その理論的支柱となったのは、アマルティア・センの厚生経済学である。

人間は開発の「手段」ではなく「目的」である。開発の目的は「経済成長」だけではなく、「潜在能力(何かを実現できる能力)」を高めることにある。安定した公共政策や自由な社会制度は経済発展の産物ではなく「原動力」である。市場は人々が相互に作用し合い、相互の利益につながる活動をする基本的な場である(問題は市場そのものにあるのではなく、情報の秘匿や強者による強引で不公正な資源配分など、その運用の歪みにある)。格差が許されるのは、社会の中で最も恵まれていない層の状況が最も改善される時のみである(格差そのものが問題なのではなく、例えば、最貧困層の潜在能力の伸びが鈍いことが問題である)。センはそう唱えた。

それまでも経済成長がもたらす人的・社会的負荷への懸念から「ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)」といった考え方が存在していたが、あくまで国家主導による基本的な財やサービスの慈善的供与という色彩が強かった。健康や教育、訓練、社会参加の拡充など、より主体の能力強化を重視しているのが「人間の安全保障」が目指す「人間開発」の特徴である。そして、そのための社会・文化環境の整備が「社会開発」とされ、道路・水道・電力といった従来型のハード面のインフラ整備とは一線を画すようになった。

(渡辺靖「文化」を捉え直す)による)

問一 二重傍線部 a「ハキユウ」を漢字で表す場合、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 把及 ② 波及 ③ 破及 ④ 播及 ⑤ 派及

問二 傍線部 1「正義」は、本来の語義とはやや意味をずらして用いられている。これとほぼ同じ意味で用いられている語を、文中より抜き出して記せ。解信用紙(その2)を使用。

問三 傍線部 2「顧客(消費者)」としての大学生とはどのような意味で用いられたものか。その説明として最適なものを、次の

- ①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

① 大学を代金(授業料)に見合つた就職先を輪旋する職業訓練機関と位置づけ、授業料を支払う大学生を「顧客(消費者)」という側面からとらえたもの。

② 消費者至上主義は今日の社会を覆う普遍的な傾向であり、そうした面から授業料を支払う大学生と大学との上下関係を改めてとらえ直す必要を述べたもの。

③ 大学を代金(授業料)とそれに相当する価値(知識や技術など)との交換が行われる経済的な場と位置づけ、授業料を支払う大学生を「顧客(消費者)」という側面からとらえたもの。

④ 市場経済の世界的ハキユウに伴い、大学も市場原理の内側に取り込まれ、淘汰されてゆく存在として位置づけ、授業料を支払う大学生の「顧客(消費者)」としての側面が含みもつ重要性を強調したもの。

⑤ 市場経済の世界的ハキユウにもかかわらず、なお旧態依然とした学問至上主義の上に安住する大学の時代錯誤を指摘し、授業料を支払う大学生を「顧客(消費者)」としてとらえる必要があることを指摘したもの。

問四 傍線部3「製造業に対する小売業の優位を意味し」とあるが、それは何故か。理由の説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **3**。

- ① 製造業者や小売業者から消費者の権利を守るため。
- ② 消費者の意向や動向が、市場競争に直接影響を与えるから。
- ③ 製造業者のみならず、消費者も市場経済に不可欠な存在だから。
- ④ 製造業者の自己評価よりも、消費者による評価の方が信頼度が高いから。
- ⑤ 消費者の優位性を確保することで、信頼度の高い製品の製造を製造業者に促すことになるから。

問五 傍線部4「その誘惑」とあるが、何を指すか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

4。

- ① グローバル化
- ② エネルギーや資源の節約
- ③ 「オーディット文化」(監査文化)
- ④ 新自由主義(ネオリベリズム)
- ⑤ 「顧客(消費者)のため」という大義

問六 空欄 **A** に入る最適な語を、文中より抜き出して記せ。解答用紙(その2)を使用。

問七 傍線部5「もはや破綻をきたしている」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は **5**。

- ① 病であることこそ、私たちが受け入れるべき新たな状態であるから。
- ② 健康状態からの逸脱以前の状態に対しても、病という概念が適用されるようになったから。
- ③ 飛躍的に増大したさまざまな症状を含め、病を再定義する新たな概念がいまだ示されていないから。
- ④ 米国の製薬業界を軸として構造化された医師と製薬会社との癒着が、医療倫理を崩壊させる結果をもたらしたから。
- ⑤ 医学の発展に伴い、それまで知られていなかった多くの症状が「未病」という概念とともに発見されるに至ったから。

問八 傍線部6「まるで疫病のごとき速度で世界各地に広がっている」とあるが、それはどのような事態について述べたものか。

最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **6**。

- ① グローバル化に伴い、米国で発見された新しい精神疾患が、世界各地に拡大しつつある状況。
- ② 米国で形成された医療現場を舞台とする市場経済システムが、国境を越えて世界各地に拡大しつつある状況。
- ③ 米国固有のものと考えられていた精神疾患が、実は世界各地にも潜在していたことが明らかになりつつある状況。
- ④ 米国で形成された医療現場を舞台とする市場経済システムが、世界各国で理解され、受け入れられつつある状況。
- ⑤ グローバル化に伴い、米国型の生活様式が周辺に拡大し、その結果、米国型の精神疾患も拡大するようになった状況。

問九 二重傍線部「フワ」を漢字で表す場合、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **7**。

- ① 不和
- ② 付和
- ③ 扶和
- ④ 負和
- ⑤ 浮和

問十 傍線部7「権力」とあるが、「他人を強制して服従させる力」という一般的な意味とはやや異なった意味で用いられている。

その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 経済援助を背景として特定の規範に従わせる力
- ② 人間社会共通の義務として特定の規範を強要する力
- ③ グローバル化の名のもとに個別の義務をわりあてる力
- ④ 新自由主義の掲げる規範に主体的に従うように仕向ける力
- ⑤ スーパーモダンの象徴として特定の規範を受け容れさせる力

問十一 傍線部8「従来型のハード面のインフラ整備とは一線を画す」とあるが、どのような点で「一線を画す」のか。説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 産業や生活基盤の整備を目指す従来型のインフラ整備に対し、国家が主体となって、個々人の生存・生活・尊厳を尊重する社会を実現するための社会・文化環境の整備である点。
- ② 産業や生活基盤の整備を目指す従来型のインフラ整備に対し、市場原理を排除することで、個々人の生存・生活・尊厳を尊重する社会を実現するための社会・文化環境の整備である点。
- ③ 産業や生活基盤の整備を目指す従来型のインフラ整備に対し、個々人の生存・生活・尊厳を脅かす恐怖や欠乏から人々を保護し、安全を確保することを目的とした社会・文化環境の整備である点。
- ④ 産業や生活基盤の整備を目指す従来型のインフラ整備に対し、個々人の生存・生活・尊厳を保護し、また個々人のもつ潜在能力を高めて、持続可能な社会を実現するための社会・文化環境の整備である点。
- ⑤ 産業や生活基盤の整備を目指す従来型のインフラ整備に対し、経済成長を最優先課題と位置づけ、個々人の生存・生活・尊厳を脅かす恐怖や欠乏のない社会を実現するための社会・文化環境の整備である点。

二 次の文章は、台湾に生まれて三歳の頃から東京で育った作家、温又柔のエッセイ『台湾生まれ日本語育ち』の一節である。読んで、後の問に答えよ。

わたしの祖母は、中国語で教育を受けたのではない。祖母が少女の頃の台湾では、日本語が「国語」だった。一九四五年、第二次世界大戦が終結するまで、台湾は日本の統治下にあった。日清戦争のちに下関条約にもとづいて台湾が日本にカツジョウウされたのは、一八九五年。となると、祖母が生れたのは、台湾が日本にカツジョウウされて四半世紀以上経つ頃になる。

母方の祖母は、わりと裕福な家に育ったという。曾祖父は、子どもたちを積極的に学校に行かせる方針だった。おかげで、誰もが——とりわけ女の子は——教育を受けられるという時代ではなかったのに、祖母は初等教育の上の家政学校まで通った。当時の台湾では、良妻賢母でテイシユクな女性を育てることを目標とした学校がいくつも設立されていたという。

——あたしが子どもの頃、おばあちゃんはよく洋服をつくってくれた。とてもじょうずでみんなが羨ましがった。

母は、よく誇らしげに回想していた。わたしも、祖母がミシンを巧みに操る姿をおぼろげながら記憶している。祖母が家政学校で学んだのは、洋裁だけではない。

A

日本の台湾総督府は、学校教育をとおして台湾の子どもたちの日本にたいする

B

を育もうとしていた。日本語を教

えることが、日本の思想や精神を教えることと密接に繋がっていたのだ。台湾では、昭和に入ると、国語教育をとおして日本統治下の台湾の子どもたちを「日本民族」「大和民族」化させる、いわゆる「皇民化運動」が盛んになってゆく。やがて日中戦争がはじまると、それはさらに激化する。祖母は、そのような状況のもとで日本語を学んだのである。わたしの曾祖父母、その世代の台湾人の多くがそうであったように、日本語ができなかつたはずだ。彼らは、台湾語と呼ばれる福建省南部で話されていたコトバを話す。曾祖父母が、台湾を統治していた日本に対して何を思い、どう感じていたか今のわたしには想像がつかない。ただ、曾祖父母が自分の子どもたちをソウシユ国である日本の学校に通わせたことだけは確かな事実である。祖母やきょうだいたちが、日本語を「国語」として学んだことがその証だ。

戦時中、日本人になりなさい、日本人を目指しなさい、と教えられていた台湾人たちは、戦争が終わったとたん、日本から切り離された。台湾人は、日本人になる必要がなくなった。いや、むしろ、台湾人は日本人ではないと突きつけられることになった。

母が言っていた。子どもたちに聞かれない話をするときの祖父母は、日本語で会話をしていた。知られたい話もそうだが、こみいった話をするのにも、日本式の教育を受け、日本語を学んだ祖父母にとっては、日本語をつかうほうが便利だったのだろう。そんなふうには日本人ではなくなったあとも、日本語は祖父母の中に沁みこんだままだったのだ。

ちょうどこんな季節だった。祖母が、台湾から日本にやってきた。妹の出産を控えた母に代わって家事をぜんぶとりしきり、四歳だったわたしの面倒をつきつきりで見してくれた。わたしは祖母にいつもまとわりつき、夜も祖母と同じ布団で眠りたがった。母が入院すると、祖母はわたしを連れて毎日見舞いに通った。病院からの帰り道、いつも同じメロディーが町に流れていた。小さなわたしの手を優しくゆすりながら、ゆうやけこやけでひがくれて、と祖母は歌った。予定日を数日過ぎてようやく赤ん坊が生まれると、もう四月が迫っていた。祖母は台湾に戻り、わたしは日本の幼稚園に通いだした。

あの春、中国語と台湾語でしゃべることは(今よりも)じょうずだったけれど、日本語をわたしはまだ一言も知らなかった。祖母は中国語があまり得意ではないから、わたしたちは、主に台湾語で話していたはずだ。やがてわたしたちは、日本語で会話するようになっていく。日本統治時代の台湾で教育を受けた祖母と、日本で育ちつつある孫娘にとつて、日本語は、中国語よりもずっと楽に使いこなせる言語だった。考えてみれば、わたしの祖母が母親になったばかりの頃、台湾における「国語」の座は、中国語が占めるようになっていた。そして、約半世紀にもわたつてその座にあった日本語は、禁じられたコトバとなった。子どもたちは学校に通うようになると新しい「国語」を叩きこまれるが、新しい言語を習得するには歳をとりすぎている大人たちとなれば、そう簡単にはいかない。母が、いとおしそうに回想していた。

——おばあちゃんは、中国語がそんなにじょうずじゃない。真的(zhen de)を、ヂンデ、という。おばあちゃんの中国語、かわいい。

まるで他人事のような母の口ぶりに、わたしも妹も笑いをこらえきれない。

——あのね、ママの日本語もとてもかわいいよ。

母は想像しただろうか。自分の娘が、自分の母親と日本語で会話するようになることを。自分の娘に、ママなんかよりもおばあちゃんのほうが日本語がじょうずだ、と言われて傷つく日が来ることを。かつて、わたしは、母の日本語が許せなかった。何ていい加減なのだろうと苛立った。そんな母の日本語を、いつか C ようになるとはまったく思いもしなかった。

母とわたしの「国語」が異なるのは、ほかでもないわたしたち自身が、国境線をまたぐ移動をしたためである。そう、中国語が「国語」である台湾から、日本語が「国語」である日本へと、わたしたち一家は移り住んだ。

わたしは想像する。母が、叔父や叔母たちと一緒に、祖母のつたない中国語を可笑しがっているところを。今のわたしと妹が、母の日本語を面白がるように、とても楽しそうな光景として。けれども、⁴ わたしが母を傷つけたように、母は祖母を傷つけたことがあるかもしれない。⁵ わたしは首をふる。想像するだけで胸が締めつけられる。母とわたしがそうであったように、母もまた、自分の両親が教わったのではない言語を、学校で教わった。しかし、わたしの祖父母は、国境線を越えるような移動をしていない。彼らはずっと、台湾にいた。支配者と「国語」の交代が、台湾人の頭上で行われたのである。だからわたしの祖母は、台湾語と日本語と中国語を、それぞれ少しずつ理解できる。ずっと台湾にいただけで。 D

台湾の歴史や政治状況について知ろうと努めていた頃、祖母と日本語で話すことを E 思うようになった。台湾の「国語」が、日本語であった過去も中国語である現在も、台湾人たちの多くが話し続けてきたコトバ——台湾語で、祖母と話してみたいと思った。妹の二十歳の誕生日を台北で祝った年なので、わたしは二十四歳。台湾語で祖母と話そう。わたしはひそかに決意する。けれども祖母は、わたしたちの顔を見ると嬉しそうに日本語で歓迎してくれた。

——よく来たのねえ、さあ、お座りなさい、おばあちゃんが果物を切るから、たくさん召し上がりなさいね……

祖母のなめらかで、たおやかな日本語をおしのけて、台湾語を喋ることがわたしにはとてもできなかった。わたしが神経質になろうとなるまいと、幼女から少女の時期にかけての祖母が、日本語というコトバをおして、眼前に広がる世界を言語化し、

学んでいったという事実は永遠に変わらない。当時の帝国・日本と植民地・台湾は不均衡な関係にあった。けれども、今、自分の目の前で、日本語でわたしにむかつて語り掛ける祖母はとても嬉しそうなのだ。遠い昔、日本統治下で教わったコトバで自分を迎え入れる祖母の前で、わたしは立ち尽くす。わたしは、祖母との間で自分に日本語を禁することを諦めた。そして、祖母の日本語の懐の中に飛び込もうと開き直る覚悟を決める。

母が妹を産むのを待つ日々、まだ日本語を一言も知らなかったわたしに、ゆうやけこやけでひがくれて、と歌ってくれた祖母の声を覚えている。あの頃のわたしよりほんの少しだけ大きかった祖母たちに、夕焼け小焼けの歌を教えた日本人たちのことを思う。たとえ大人たちの中には支配者である日本に対して抵抗を感じる者がいたとしても、少女だった祖母は、学校の先生が教えてくれる日本語や日本文化を素直に学んだのだろう。いつか、先生たちの国が戦争に負けて、日本人がいなくなったあとの台湾で日本語が禁じられるようになるとは思ひもしなかったはずだ。祖母は、日本語ではなく中国語を「国語」として学んだ娘が日本に住むことになったとき、どう思ったのだろう。日本で育つ孫娘が、自分の娘の話していた中国語ではなく、日本語を喋るようになったことをどう感じていたのだろう。

問一 二重傍線部 a「カツジョウ」を漢字で表す場合に最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

10。

① 活譲

② 克讓

③ 割譲

④ 括状

⑤ 勝状

問二 二重傍線部 b「テイシユク」を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。

問三 二重傍線部 c「ソウシユク」の片仮名部分を漢字で表す場合に最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は 11。

① 総首

② 壮主

③ 総主

④ 宗主

⑤ 壮首

問四 空欄

A

に入る最適な文を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

12。

- ① 日本語も、だ。
- ② 女性が身につけるべき教養一般である。
- ③ いわゆる日本的な「女徳」も、である。
- ④ 当時の女性にとっては新鮮だった「近代的」な思想もだ。
- ⑤ 祖母の立居振舞はいまでもたおやかでやわらかだ。

問五

空欄

B

に入る最適な語を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

13。

- ① 探究心
- ② 知識
- ③ 疑念
- ④ 公正さ
- ⑤ 忠誠心

問六

傍線部「台湾人は、日本人になる必要がなくなつた。いや、むしろ、台湾人は日本人ではないと突きつけられることになつた」とあるが、これはどのようなことを意味しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は

14。

- ① 長期にわたつた他国による支配から解放された台湾人は、自由の意味をかみしめるとともに、本来のアイデンティティを取り戻した。
- ② これまで日本語を学び、日本人になるために積み重ねてきた多大な努力は、ついに報われることなく、人々は深い徒労感にうちひしがれた。
- ③ 皇民化教育が進められた時だけではなく、逆に日本人でなくなることもまた、台湾人自身の意志とは無関係の突然の転換だった。
- ④ 長期にわたつて日本人になるための教育がなされたが、うわべの教育によつて個々人のアイデンティティが本当に変容したわけではなかった。
- ⑤ 歴史が動き、体制が転換したときに、当時の人々がどう感じ、どう行動したかは一言で語るができないほど、さまざまだった。

問七 傍線部2「そんなふうには日本人ではなくなったあと、日本語は祖父母の中に沁みこんだままだったのだ」とあるが、どういうことか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

① 日本人として育つたために、支配体制の変った後も発想の転換がでにくかった。

② 基本的な感性と思考を梃づけた言葉は、大人になっても内面に残り続けた。

③ 二言語使用者は、言葉にしてよい事といけない事とを自然と切り分けるようになった。

④ 支配者が変わると同時に言語を切り替える者は不誠実だと見なされた。

⑤ 言葉をその都度の相手によって使い分けるには、まだあまりにも幼かった。

問八 傍線部3「子どもたちは学校に通うようになると新しい「国語」を叩きこまれる」とあるが、この場合の「国語」は何を意味しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

① 日本語

② 中国語

③ 台湾語

④ 公用語

⑤ 正しい教育言語

問九 空欄 **C**

に入る最適な語を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

① 許す

② 学ぶ

③ しのぐ

④ いとおしむ

⑤ とってかわる

問十 傍線部4「わたしが母を傷つけたように」とあるが、この部分の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

① わたしが母の中国語を聞き取れないことに苛立ったように

② わたしが台湾人である母が日本語を使うことに苛立ったように

③ わたしが故郷を棄てて日本に移住した母を許せなかったように

④ わたしが新しい言語環境への適応を拒む母を軽蔑したように

⑤ わたしが正しい日本語を使えない母にもどかしさと怒りを感じたように

問十一 傍線部「想像するだけで胸が締めつけられる」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① わたしに対しては優しい母だが、その母がかつてだれかを傷つけてきたのなら、わたしにとつても辛いことである。
- ② 異郷で暮らす外国人のコトバが下手だからといって、それを嘲笑するのは残酷なことである。
- ③ 「かわいい」という言葉は誤解されやすく、軽蔑したり嘲笑したりする意味をもってしまう場合もある。
- ④ 母に無理解だったことを深く後悔しているわたしは、それと同じ関係が母と祖母の間にあったと想像するのは辛いことである。

⑤ それぞれのコトバの背後にある深い歴史を知ろうとしないことが、国際交流を進める上でのさまたげになっているのは残念なことである。

問十二

空欄 **D** に入る最適な文を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **20**。

- ① いや、ずっと台湾にいたので。
- ② わたしや母が移動によって得たものを祖母は自然に獲得していた。
- ③ いまでは複数言語使用など普通のことになっているが。
- ④ その意味で祖母たちの世代は恵まれていた。
- ⑤ かつては留学する必要などなかった。

問十三

空欄 **E** に入る最適な語句を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

- ① うしろめたく
- ② 面倒くさく
- ③ 不思議なことだと
- ④ ひそかな楽しみだと
- ⑤ 誇らしく

問十四 傍線部6「わたしは、祖母との間で自分に日本語を禁じることを諦めた」とあるが、その理由として最適なものを次の①

⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 22。

① 祖母の日本語は独特のやさしさを感ぜさせるものだったから

② 祖母は台湾語よりも日本語の方がうまかったから

③ 祖母の日本語はわたしが学校で学んだ現代の日本語にはない気品やかわらかさがあったから

④ 祖母の日本語には、どのような歴史であれ、祖母の生きた時代の歴史が刻まれていたから

⑤ 祖母は日本語を使うことによって日本に移住した母やわたしを許していたのだから

問十五 傍線部「どう思ったのだろう」「どう感じていたのだろう」という書き方から読み取ることのできる筆者の思いはどのよう

なものか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 23。

① 歴史が大きく転換した時代のなかに生きていた個人々の生について思いめぐらすとともに、異なる時代を生きた他者の生をたやすく理解してしまうことについては慎重であろうとしている。

② 日本統治下の時代からすでに七〇年が過ぎており、祖母の世代の歴史経験はあまりに遠く、その思いを理解することは断念せざるをえないと考えている。

③ 親しみと愛によって強く結びついている家族であっても、完全に理解することなどできないという点では他人とかわらないと考えている。

④ わたしにとつて祖母と母の関係にはうかがい知れない部分があり、その真実を知ることについては躊躇せざるをえないと感じている。

⑤ 家族の秘密を明らかにすればそれまでの関係が損なわれるかもしれないが、そうであっても歴史の真実は明らかにしておきたいと考えている。



